



宇野いちご園(直売)

親子2代4人家族で「地元で愛される」味と品質を管理



宇野 正太郎さん(右から2番目)とご家族

まだ土耕栽培のイチゴが主流だった16年前、宇野 正太郎さんが帰農して始めた農園です。5棟のハウスで4種類のイチゴを栽培しています。イチゴは種類ごとに最適な環境が微妙に違うので、品種ごとにコントロールしているそうです。息子夫婦と家族4人で、徹底管理できる分しか栽培していません。「地元で愛されるいちご園であり続けたい」と語る宇野さんは、経験と工夫で減農薬に成功し「環境ごだわり」の認定を受け、朝採り完熟イチゴの直売をしています。

味や品質へのこだわりを理解して求めてくれる人がいるのは、うれしい反面「食べ物なのでこまかしくはきかない」と、顧客の期待とプレッシャーを感じながら仕事をしています。



早川いちご農家(流通)

収穫の喜びも苦勞もダイレクトに感じられることが農業の魅力



色づいたイチゴを手にする早川 明雄さん

早川 明雄さんはサラリーマンを退職してから、1年間県立農業大学校で農業のノウハウを学びました。約1町(1ha)の田んぼで米づくり、2棟のハウスでイチゴ栽培、妻のかず江さんが管理する畑作をしています。

イチゴを始めて数年の頃、炭疽病でハウス1棟が全滅した苦い経験があるといます。だからこそ、害虫や病気から苗を守り、おいしいイチゴを育てるために全力を注いでいます。

早川さんは「農業の楽しさは栽培の努力や苦勞が、イチゴの出来やお客からの声などで喜びとしてダイレクトに感じられることです。滋賀県で生まれたばかりの新品種「みおしずく」の栽培もしてみたいですね」と話していました。



イベントのご案内

旬を食べよう もりやまいちご 「大直売会」

岡もりやま食のまちづくりプロジェクト
(農政課内) ☎・☎(582)1130

●おうみんち会場

時1月21日(土)

午前9時~午後5時(無くなり次第終了)

●市立図書館会場(カフェがんこ堂)

時1月29日(日)

午前10時~正午(無くなり次第終了)



グリーンエコスター株式会社

企業版ふるさと納税で農家を支援
国内最大規模の10万株を栽培



9月の定植作業



収穫期を迎えたイチゴ

農業法人グリーンエコスターは平成17年に栗東市で創業し、翌18年には守山市に農場を作り、イチゴの栽培をしています。

地域の農業振興を使い道に指定して、万代グループ(株式会社万代リテールホールディングス、株式会社万代、グリーンエコスター株式会社、スター株式会社など)のうち2社から本市企業版ふるさと納税制度による寄付をいただきました。

令和3年にハウスを拡大して、それまで湖南各地に点在していた農地を集約し、立田町地先465アールの敷地で2種類のイチゴ「紅ほっぺ」「かおり野」を栽培しています。イチゴの苗数は国内最大規模の約10万株。イチゴの収穫は12月中旬から最盛期となり、毎日早朝からスタッフが収穫に追われています。



グリーンエコスターの山越 裕司代表取締役(右)と山中 清行部長

グリーンエコスター株式会社は、いわば企業版の地産地消を目的に、全国的に見ても例の少ない流通系(食品スーパー)の自社農場として始まりました。ハウスで収穫されたイチゴは、地元と京阪神スーパー万代店舗の店先に並びます。

守山市は、農家の大規模経営や企業という新しい農業の担い手を受け入れる懐の深さがあると思います。農地を探す相談やその後の支援も丁寧で、守山の農業は今後も伸びしろが大きいと期待しています。

守山のイチゴ農家には、うちのような自社農場のほか、流通農家、直売農家、観光農園などがあります。紅ほっぺ、あきひめ、よつぼしなど栽培されているイチゴの種類が多く、いろいろなイチゴの食べ比べが楽しめるまちです。

「紅ほっぺ」は温暖な静岡県で作られた品種です。守山は静岡より寒いので収穫量は減っていますが、甘みが強くなり味が良くなります。寒すぎてもダメなので、守山を含む湖南はイチゴ栽培にほどよい環境といえると思います。